

知的障害養護学校における就学前教育相談のあり方について

神谷みつ江

研究協力者：吉川一義（金沢大学教育学部）

1. はじめに

近年、特殊教育諸学校には、地域の特別支援教育の推進を担うために、その専門性や施設・設備を活かしたセンター的役割が求められている。その支援体制の一つに教育相談が挙げられ、従来からの就学相談等に加えて、就学前からの早期教育相談も各地で取り組まれてきている。本校でも今年度、就学前教育相談事業として「幼児発達相談室」を立ち上げた。今後の本校での取り組みを充実させていくために、初年度は文献研究という形で、他校での取り組みの報告、現状から成功例や課題等を学び、知的障害養護学校での就学前教育相談のあり方を考察していくことにした。

2. 方法

各教育研究大会での実践報告や文献、インターネットでの事例紹介等を資料として、それぞれの学校の取り組みの特色や相談の意義、そこからみえてきた課題やその解決への工夫などを学ぶ。また、本校の所在地である金沢市での相談の現状を踏まえて、その中でどのように本校の特色を出し、地域のニーズに応じた貢献をしていくか、他機関との連携を図っていくか等模索したい。

3. 就学前教育相談のニーズ

教育相談の支援体制は、社会の求め、保護者のニーズに応えるために、地域の実情に合わせてシステムが整えられてきている。まず、そのニーズにはどのようなものがあるのか調べてみた。

（1）保護者のニーズ

保護者へのアンケート¹⁾によると、発達上の気がりや障害を受け止めるために必要としたこととして、子どもの障害や育て方を教えてくれる人や場所、子どもとかわって、伸ばしてくれる人や場所、悩みを受け止める人や場所が挙げられた。養護学校に求める相談活動としては、身内や園、近所との関係などの悩みを受け止めてくれる人や場所、子どもの障害に関する知識やかかわり方についての情報の提供が望まれている。また、別の調査²⁾では保護者は、子どもの障害にとどまらない相談の場や保護者同士の交流の機会、保護者自身が安心できる場を求めていることが把握された。これは例えば、保護者の心配や不安を受け止め、じっくり話を聞いてくれる人や一緒に考えてくれる人が必要であり、親と同じ視点に立ち共に考える姿勢が担当者に求められているということである。就学相談に関する調査³⁾では、子どもが年長児になってから就学について考えた保護者の割合が多く、短い期間での就学先の決定に不安や不満がみられる。多くの保護者が、継続的で丁寧な就学相談を求めていることがうかがわれる。また、就学先を決定する上で、特に参考になったこととして、障害児学校や学級の見学、体験が挙げられている。

（2）保育所・幼稚園のニーズ

巡回訪問相談活動に取り組む養護学校の調査⁴⁾では、園での生活や集団での活動などが

ら発達に課題があるのではないかと思われる乳幼児が通っている園は7割以上あった。指導者は、障害に対する専門的な知識について知りたいと思っていたり、障害児や発達に課題をもっている子どもに対する養育、指導法について悩んでいたりする現状が明らかになっている。また、障害や発達上の課題についての保護者の理解や気づきが得られないことでの悩みや問題も抱えている指導者も多いことがわかってきた。そういう状況においては、調整役としての相談員の支援が必要とされてくる。保育所や幼稚園を対象にした教育相談の必要性に関する調査⁵⁾では、実態に応じた保育方法、発達や障害の理解、保護者への援助、保護者の障害への理解促進に関するアドバイスが必要とされている。

(3) 立場によるニーズの違い

保護者と園の指導者という立場の違いによって、相談に関するニーズの違いがみられる。また、ここに現れていない子ども本人のニーズを押し量り、思いを寄せることも当然必要である。子ども、保護者、指導者のそれぞれが抱える困難さに多少の違いがあるということは、それに対する支援の仕方や内容もそれぞれ異なってくるということである。

4. 知的障害養護学校における就学前教育相談の取り組み

現在、全国の知的障害養護学校では391校が就学前教育相談を実施⁶⁾しており、地域の実状によって様々な取り組み方がある。例えば、地域に障害児教育に関連する相談・療育・保健機関が不足している場合は、その地域における相談・療育フォローを行っている。相談事業・公開講座開催・自治体や医療関連の専門家等による相談室の開設等が試みられている地域では、より広範囲の地域からの電話やメール等の相談、教材や指導案等の学習関連の内容の公開・提供も行っている⁷⁾ようである。近年はニーズの高まりに伴い、その時々が必要に応じた様々な役割・機能を担う学校も増加している。

(1) 相談の機会

- ・幼稚園や保育所への巡回訪問相談
- ・幼児と保護者対象の親子教室の実施（集団や個別・年度当初に定員募集する場合も）
- ・保護者や園の指導者を対象とした講座・座談会形式の学習の場の提供
- ・学校外の相談センターに教師が出向いての教育相談
- ・相談とともに希望者に学校体験入学による授業参加、学校参観、行事見学を設定
- ・幼稚部での相談（知的障害養護学校での幼稚部設置は全国で14校 2.7%）
- ・電話相談・インターネットによる相談

(2) 求められる相談内容（支援）

- ・保護者が子どもの状態を正しく受け止められるようになるための支援
- ・子ども自身に関する気付きや障害に対する、育ちに即した具体的な支援
- ・保護者のニーズに応じた相談活動（保護者の悩み・つらさへの共感）
- ・良好な家族・親子関係を作りあげていけるようになるための支援
- ・子どもに関するさまざまな情報の提供
- ・親同士の情報交換の場の提供
- ・保護者と幼稚園・保育所の指導者との信頼関係を育む調整役的支援
- ・幼稚園・保育所の指導者に対する助言、研修の機会の提供

(3) 相談の成果

- ・子どもの成長が認められる
- ・子どものもつ困難が軽減・改善される
- ・保護者の不安の軽減、心理的安定がはかれる

- ・保護者や園の指導者の、子どもへの理解が深まる
- ・保護者の、養護学校に対する心理的抵抗感が薄まる
- ・継続的な相談につながる丁寧な就学相談が可能になる
- ・就学後の学校と保護者とのコーディネーターとなることができる
- ・地域の関係諸機関の人とのつながりができて、相談・連絡がしやすくなる
- ・相談活動に携わる中で、担当者がいろいろ学び、社会的ニーズの多さに気づく

(4) 相談を実施する学校にとっての問題点と課題

- ・担当教師の数の不足
- ・予算措置の不足
- ・施設、設備面の不備・不足
- ・校内での協力体制の不備
- ・相談の多様化、複雑化による担当教師の専門性の不足
- ・園への巡回相談を保育現場に疎い養護学校教員が行うことに対するとまどい・疑問
- ・「養護学校教員」という肩書きの中で、学校外で相談を行うことの限界
- ・養護学校で行う相談に対する親の抵抗感（入学とは関連なしが前提としても）
- ・関係諸機関との連携の不足・困難さ
- ・相談や指導回数確保の難しさ
- ・学習会等を参加者が多い土曜日に実施することの難しさ

(5) 課題への取り組み・工夫の例

- ・校内組織の再構築・・・たとえば校内委員会の一つとして、支援部として、教育相談課として、校務分掌に位置づける
- ・施設面・・・相談コーナーの構造化の工夫 相談専用電話設置 学校外施設の利用
- ・連携・・・自治体主体の相談事業のメンバーとして活動する中で、関連諸機関とのつながりをもち、さらに広げ深めていく
- ・肩書き・・・自治体の事業協力者として相談活動を行っている場合には「専門相談員」「巡回相談員」「発達相談員」といった名称を使用しているところもある
- ・専門性・・・教育研修センター等の研修講座や研究会、講演会への参加、各相談機関の見学、文献などでの学習等で専門性の向上に努める
担当職員として、医療・専門関連スタッフを要している学校もみられる
関係諸機関のスタッフとともに行うことで相談の充実を図る
- ・相談回数・・・個別だけではなく集団での活動形態も取り入れて必要回数を確保する

5. 養護学校が取り組む相談について

子どものライフサイクルに応じた一貫した支援体制が求められている今、それぞれの地域の実情に応じた相談システムの構築が必要とされている。養護学校の就学前相談もその一端を担う役割がある。学校としては現状を踏まえて、相談の充実を図るために何ができるか、困難であるかを見極める必要がある。例えば専門性を活かす取り組み、それを可能にする校内組織の見直し等を行う、既存施設・設備を効率的に利用するための工夫をする、関係諸機関とのネットワーク作りを模索する等である。

就学前教育相談は、障害や気がかりな点だけに焦点を合わせたものでは決してない。発達支援という視点においては、それまでに子どもの育ちにかかわってきた保健、福祉、医療、療育の各分野や現在通っている幼稚園や保育所との連携が大切となる。また、幼児期に保護者の気持ちに寄り添う相談が行われることが、充実した就学相談にもつながり、就

学後の相談の継続も可能にしていくと考えられる。

6. 本校の相談機能について

本校がある金沢市では従来より「子ども福祉課」が保育所への巡回相談や発達相談、保育士や保護者への研修等を行っている。市内3カ所に市内在住者を対象とした幼児相談室も開設されており、各2人体制で相談を行っている。幼稚園に対しては今年度から研修参加等の呼びかけを行っているということである。今年7月には「金沢市教育プラザ」が新規開設し、各専門家をスタッフに相談事業の充実が図られた。保護者や保育に携わる指導者が必要に応じて相談を受けられるシステムが整ってきつつある。このような現状を踏まえて、本校の就学前相談について考えてみた。

(1) 本校の地域貢献のための資産

附属学校としては大学との連携があることが挙げられる。例えば、様々な情報の収集、幼児発達相談の事例の積み重ねを体系化し活用するためのデータベース化の取り組み、大学のスタッフを講師としての研修、大学病院のドクター等との連携、学生のボランティア活動等が可能である。養護学校としては、これまでの障害児教育における経験、指導事例の積み重ねがあること、小・中・高等部にわたる子どもの育ちを知っていること、個に対する視点をもちつつ集団の中での育ちも大切にしながら実践を日々行っていること等ノウハウの蓄積がある。また、障害児教育の経験が豊富な職員が多く、研究においてもそれぞれが日々の教育活動につながるテーマをもって取り組んでいる。全職員が子ども一人ひとりを知っており家庭的な雰囲気も特長である。学校医は健康相談のため2週に1回学校を訪れており、その際教室を巡って子どもたちの健康状態も確認するなど連携も密接である。交通の便もよい等、街中に立地している故の利点も多い。

(2) 本校の現状と課題

大学との連携で相談を行っているが、本校の相談担当者は小学部の部主事と低学年担任に偏っている。小規模校で職員の数は少ないが、校務分掌上に地域支援部門として位置づけて学校全体として相談活動に取り組める体制作りが急務である。また金沢市にある養護学校ではあるが、市の関係諸機関との連携は十分ではなく、ネットワークの構築は最大の課題である。資産を有効に活用して相談機能にどのような特色をもたせていくか検討を要することが多い。さらに教師の専門性ととともに、カウンセリング知識など相談担当者に求められる資質の向上に努めていくことも当然必要とされる。これらの課題を踏まえ、ニーズに応える取り組みを積み重ねていく中で、より望ましい相談のあり方を考えていきたい。

<参考文献>

- 1) 岩井秀夫 「『特殊教育』から『特別支援教育』への転換の中で探る特殊教育諸学校の役割について」
日本特殊教育学会第41回大会発表論文集 P363
- 2) <http://www.nise.go.jp> 2003. 9. 9 小林倫子 「通級指導学級における早期からの教育相談」 P63-66
- 3) 櫻井宏明・戸田竜也 「保護者の視点から見た就学相談・指導の問題点」 『障害者問題研究』2001Vol. 29-3 No. 107 P18-27
- 4) 岩上弘史 「保護者とともに考える就学」 『発達の違いと教育』2002. 2 No. 534 P27-29
- 5) 児山治正 等 「鳥根県西部域における気になる乳幼児に関する教育相談の必要性について」 本特殊教育学会第41回発表論文集 P483
- 6) 小杉利勝 「全国特殊教育諸校の現状」 第4回自立活動研究フォーラム要項資料
- 7) 橋本創一 「養護学校における教育相談の現状と課題」 第24回教大協特殊教育部門合同研究会滋賀大会要項 P27-29
- 8) <http://www.nise.go.jp> 2003. 9. 9 教育相談センター 「障害のある子どもの教育相談に関する実態調査」 (H. 14. 3) P65-67
- 9) <http://hein059.hokkaido-c.ed.jp> 2003. 9. 9 後上鐵夫 「教育相談と保護者支援」 (H. 14. 5. 22)
- 10) 橋本正美 等 「北海道南幌養護学校の教育相談の実施Ⅱ」 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集 P362
- 11) <http://www.aichi-c.ed.jp> 2003. 9. 9 「養護学校等が行う特殊教育相談の支援に関する研究」 愛知県総合教育センター研究紀要第92集
- 12) <http://fen.edu.iwate-u.ac.jp> 2003. 9. 9 岩手大学教育学部附属養護学校 「幼児教室のご案内」
- 13) 西堂直子 「障害幼児を対象にした親子教室のとりくみ」 第24回教大協特殊教育部門合同研究会滋賀大会要項 P31-32
- 14) 小林壽江・車谷真弓 「教育、医療、福祉の有機的連携システムを!!!」 『実践障害児教育』2001. 3 Vol. 333 P2-6
- 15) <http://www.3.ocn.ne.jp> 2003. 4. 8 那須養護学校 「幼児教室相談室 ことり教室のご案内」
- 16) <http://akebono.kouchi-u.ac.jp> 2003. 5. 8 高知大学附属養護学校 「幼児の教育相談について」
- 17) <http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp> 2003. 5. 8 長崎大学教育学部附属養護学校 「教育相談」
- 18) 宮城教育大学附属養護学校 「平成14年度研究紀要 第36集」 P152-155
- 19) 高原正郎 「新たな就学相談の取り組み」 『発達の違いと教育』2002. 9 No. 541 P15-17
- 20) 中村圭佐・氏家靖浩 編 「教室の中の気がかりな子」2003 朱鷺書房